

子育てコラム 25

「遊びの発達 — 幼児期後半 —」

古くから遊びはさまざまな分類がされてきました。その中でごっこ遊びやその後のルールある遊びは、社会性を育てる集団遊びとして考えられています。2歳くらいからの子どもたちが夢中になるごっこ遊び。お店やさんごっこ、家族ごっこなど沢山あるごっこ遊びは、年齢が進むにつれ子ども同士で役割分担をし想像を広げ、自分たちで遊びを展開させていきます。年長さんたちが楽しんでいるルールのある遊びでは、子どもたちの「こうやってしよう」「まもるといかんで」「ちがうで」などの声も飛び交います。遊びのなかで起こるいざこざを通じ、時には喧嘩をしながら話し合いもして、大人の介入もあり社会性や道徳性を培っていきます。子どもたち同士でより良い対処を模索する過程から、我慢や協調性も学んでいきます。

「園が休みの日は長いことゲームをします」とおっしゃる保護者の方が増えています。あまり体を動かさずに外遊びもほとんどしないのは、大事な時期の体づくりがうまくできません。成長期に適切な運動をすることによって筋肉や骨の量が増え、外遊びで日光を浴びることによって良い睡眠を得ることになり生活リズムも整います。子どもは本来体を動かすことが大好きです。まずは子どもに声を掛けて一緒に遊んであげましょう。ゲーム機が手に届かない外に出て、追いかけっこや鬼ごっこ、走るだけでも子どもは喜びます。寒い時期には少人数おしくらまんじゅうもいいですね。人の温もりが伝わってきます。

保護者の中には、休みの日など家の中にいると家事が気になり子どもとの遊びが中途半端になるので、いっそのこと外に出ていますとおっしゃる方もいて、お気持ちよく分かります。子どもにとって何よりうれしいことは、大人が笑顔で真剣に遊んでくれることです。